

「学び」の体系化の考え方について

【1】学びの「段階」での整理

①「学び」のきっかけ段階：【中央公民館講座、行政講座、まちゼミ、県出前講座 など】

1) 「中央公民館講座」や「行政講座」などの内容は、単発であったり、趣味的な内容であるため、必ずしも「地域」を盛り上げていく「学び」に繋がっていくわけではない。

そのため、あくまで「人材育成」の視点であれば、「学び」のきっかけ段階であるという考え方を持つものである。

2) 亀山市では様々な場所で「講座」や「教室」が開催されていることは、地域の「学び」のきっかけ段階の場が広がることであり、「自分づくり」や「仲間づくり」に繋がっていく。これらの「講座・教室」の内容を直接利用するわけではないが、「学びを活かす」という視点からかめやま^{びと}人キャンパスに繋げていく。

(例：「趣味的な内容をしている（農業、手芸など）」⇒「ビジネス的な視点を付与」

⇒「空き家を使って仲間で、週に1回販売店をしてみよう」など)

②「学び」による人材創出段階：【かめやま^{びと}人キャンパス】

1) 3年間を通じて「亀山の良さを発信すること」や「亀山の地域課題に取り組むこと」ができる人を増していく「学び」の内容を提供し、「かめやま^{びと}人」の称号を授与していく

2) 「学び」の成果を地域で役立てる仕組みづくりとして、「かめやま^{びと}人」の称号を得た方には、「行政委員」や「講師の登用」などを含め、地域での活躍する機会を提供していく

3) 1年次、2年次、3年次の内容は、「入門編」、「基礎編」、「応用編」といったようにステップアップしていく内容を検討し、実施していく

【2】講座情報の一元化

①講座情報の発信

「学び」のきっかけ段階や「学び」による人材創出段階で行われている講座内容についてを情報収集・情報整理して、「亀山学びのガイドブック」として亀山市で全戸配布していく

②類似講座の整理

「中央公民館講座」や「行政講座」で、類似講座がある場合については、「生涯学習課（中央公民館）」が中心となり目的や対象などを踏まえて、整理を行っていく

【3】学びの体系化による効果

①効果

- 1) 地域で活躍できる人材の育成に繋がり、一人ひとりが活躍できる「生涯学習社会」の実現に繋がっていく
- 2) まちの魅力発見・発信、学び手から学びの提供者へ、地域創生に繋がる活動への転化、地域力向上・地域の担い手づくりなどに繋がっていく

※参照：学びの体系図

